

## 便秘に注意

静内診療所 野坂拓史

年が明けて、早い所ではお産に向けて準備を始したところでしょうか。

今回は、馬の疝痛の中でも寒い時期に多くなる便秘疝について書かせていただこうと思います。

### ・原因

冬に便秘疝が多くなる要因としては、運動量が減ることで腸管の動きが弱くなること、飲水量が減る・水分の多い青草を食べられなくなるため糞便中の水分量が減ることで硬くなることなどが考えられます。また、敷料の麦わらなどを食べることで便秘が起こりやすくなります。

### ・予防

運動不足および水分不足が主な要因であるため、予防には十分な運動と水分摂取が必要です。

寒くなり雪が積もれば、放牧していても運動量が減ってしまいます。糞便が固くなるなどの兆候が見られる馬では、ウォーキングマシンや引き運動での積極的な運動が必要になります。水桶の水が冷たかったり、凍っていたりすると飲水が出来ないため、飲水量のチェックとこまめに新鮮な水に変え、放牧中でも飲水できる環境を整えることも重要です。温水を入れてあげるのも効果的です。餌に塩を混ぜることで飲水を促すこともできます。

### ・治療

便秘疝の治療としては、絶食、運動や静脈内輸液で腸管蠕動の促進、下剤による便の排出があります。

下剤には主に、塩類下剤(腸管内に水分を

引っ張ってくる)・流動パラフィン(油)などの潤滑剤の経口投与が挙げられます。しかし、完全に糞便が詰まっている状態で下剤をかけると腸管破裂などの危険があるため気を付けなければいけません。特に、塩類下剤は腸管内で多量の水分を含みながら膨張するため注意が必要です。

### ・盲腸便秘

糞便の停滞は、内径が細くなる結腸の骨盤曲で起こりやすいですが、盲腸出口も細いため、盲腸便秘が起こることもあります。盲腸は、袋状に突き出した構造のため、下剤を投与しても宿便が排泄できず、最終的には開腹手術の必要が出てきます。特に治療により一度疝痛が治まっても再発を繰り返すような場合には、盲腸便秘を疑う必要があります。

### ・繁殖牝馬

分娩前後の繁殖牝馬では、子宮に押され腹腔のスペースが狭く、糞便が停滞しやすいため、特に便秘疝への注意が必要です。また下剤での治療は、分娩前は腸管の膨張による疼痛が強く出やすく、分娩後では膨張した腸が空いたスペースへと変位することもあるため、投与には慎重な判断が必要です。



小粒で、水分の少ない硬いポロが見られる場合は注意し早めの対策を取りましょう。